

科目名	言語発達障害Ⅰ			授業の種類	講義	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科1年	必修・選択	必修

〔授業の目的・ねらい〕

言語発達障害の要因についての知識を身につける。

〔授業全体の内容の概要〕

言語発達障害名とその症状を理解する。  
言語発達の阻害に関する近年の現状を理解する。

〔講師の実務経験〕

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

言語発達障害名とその症状の特徴を結びつけて説明できる。  
言語発達の阻害に関する近年の現状を説明できる。

回数	講義内容
1	言語発達障害とは
2	言語発達障害の医学的背景①
3	言語発達障害の医学的背景②
4	特異的言語発達障害
5	限局性学習障害
6	知的能力障害
7	自閉症スペクトラム障害
8	注意欠如・多動性障害
9	脳性麻痺・重複障害
10	小児失語症と後天性高次脳機能障害
11	多言語環境で育つ子どもたち
12	低出生体重児における言語発達の問題
13	教育における言語障害
14	言語発達障害と言語聴覚士の関わり
15	まとめ

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
標準言語聴覚障害学 言語発達障害学（第3版）		医学書院

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。